

平成 29 年度第 2 回廃棄物減量等推進審議会議事録

日時：平成 30 年 2 月 21 日（水）10 時 00 分

場所：多治見市役所本庁舎 4 階会議室

出席委員：小澤会長、加藤副会長、北澤委員、佐伯委員、松下委員、
山田(誠)委員、山田(輝)委員、奥村委員、松田委員

欠席委員：関谷委員、渡海谷委員

事務局：樋口環境文化部長、澤田環境課長、福岡清掃事務所副所長、玉野課長代理、
市川主査、安田課長代理

○ 開会挨拶

環境文化部長挨拶

○ 議事

1. 会長・副会長の互選について
2. 多治見市第 3 次一般廃棄物処理（ごみ処理）基本計画について
3. 多治見市の環境・廃棄物(平成28年度版)について
4. 平成29年度 多治見市一般廃棄物処理実施計画について
5. 平成30年度 多治見市一般廃棄物処理実施計画(案)について
6. その他

議事 1

（会長・副会長の互選について）

概要：事務局より、廃棄物減量等推進審議会の会長・副会長の選出方法等について説明し、意見を求める。

結論：事務局からの推薦にて選出で同意。

会長 小澤委員、副会長 加藤委員に決定

議事 2

（多治見市第 3 次一般廃棄物処理（ごみ処理）基本計画について、事務局より説明）

概要：この第 3 次基本計画は、平成 29 年度から平成 38 年度の 10 年間であり、社会情勢の変化等に伴う計画の見直しは平成 33 年度に行う予定。本計画の一般廃棄物処理の基本方針等について、概要を説明。

主な意見

(委員) リサイクルプラザで物品の販売は年間何回開催しているのか。

(事務局) リサイクルデパートのことであるが、年1回開催している。三の倉センターに搬入された物品を修理して販売している。

(委員) 以前に行ったことがある。このデパートは年間を通して実施しないのか。

(事務局) 年間を通して開催するには、販売する物品が集まらない。年間2回でも物品が集まらないので、年1回の開催としている。

(委員) 10年間という期間の計画であるが、当初の予想と大きく違っていたことはないか。

(事務局) 計画は5年ごとに見直しをしている。現状に合わせるのではなく、基本計画は理想を計画数値としている。ごみの排出量は年々減ってきているが、単年度ごとに策定する実施計画で現状に合わせた計画数値としている。

(委員) 水害等の災害で、ごみの排出量が増えると想定されるが。

(事務局) 災害時は増えることが想定されるが、平常時では、計画とおりに推移している。

(会長) 最終処分場の埋立処分量について、年間3000トン埋立をしているが、残り何年くらい埋立てができるのか

(事務局) 分別収集を導入したことにより、埋立量は少なくなっている。臭いも少ない。計算でいけば、半世紀ぐらいは大丈夫であると想定している。

(事務局) 平成17年の最終処分場の候補地選定時に地元との協議の中で、現在の最終処分場を長く使用しなくてはいけないということを認識している。

(会長) この計画は、丁寧に書かれているのでわかりやすい。

(委員) 施設見学をおとどけセミナーで行いたいと考えている。併せてバスの手配はしてもらえるのか。

(事務局) 基本的には、現地集合となるが、市のバスの予約状況などを見ながら相談したい。

(委員) ごみの排出量について、一般の持込みが増えてきている。重さに応じて料金を払えばいいと思っている市民に対しての対応が必要。また、陶磁器のリサイクルについて、陶磁器を回収して、製品化しているのをもっと周知すべきである。

(事務局) Re食器の原料となる陶磁器を回収し、グリーンライフ21という団体でRe食器を製品化して周知している。横須賀などの地域で使われて認知されている。中部先進5市でサミットを多治見市で開催した時に、Re食器を使った昼食を提供したところ好評であった。

(委員) 収集業務を一部外部委託している。今後10年で1万人減ると言われているので、当然ごみが減量する。民間なら収支決算で、従事している職員の費用やごみ袋の販売代金、ごみ搬入手数料を明確にし、より一層の改革を行い、減額した分を他部門の予算で使ってもらうことを考えてはどうか。

(事務局) 行政改革でごみ収集に関する職員は、20年間新規採用していない。昔は40人の正規職員であったが、現在は、正規職員23人臨時職員8人の体制で行っている。ごみの排出量や収集車両の適正台数を確保しながら今後も収集を行っていく。

(委員) 区長をやっている。区に行政は協力要請ばかりしている。資源収集の当番は、市民の義務なのか。税金を払って処理してもらっているのに、なぜだと思ってしまう。収支決算を公表して市民に対しての説明をしっかりとした方がよい。

(事務局) ごみステーションは団地が完成するなどの要因で増えてきている。コスト的には増加している。処理経費の明確な開示は、多治見市の環境・廃棄物の平成28年度版に記載されている。1人当たりの処理経費について、ごみの量は年々減ってきているが、当初からの施設で焼却しているので、処理費用は変わらない。可能な範囲内で節電や節約を行い、行政改革の視点を持って今後も進めていきたい。

(委員) ごみの捨て方について、お盆の時のごみの捨て方についてもう一度考えてほしい。ごみ袋の代金について、東濃では多治見が一番高い。隣の瀬戸は安い。ごみ袋について、安価で丈夫な袋にできないか。ごみ袋について、安くて丈夫なものにしてほしい。

(事務局) 料金については、4年に一度見直しをしている。処分費用などを考慮しながら料金を設定していく。

議事3

(多治見市の環境・廃棄物 平成28年度版について、事務局より説明)

概要：多治見市の環境・廃棄物は毎年作成しており、平成28年度多治見市一般廃棄物処理実施計画に基づき、ごみ処理を行った実績をまとめて公表したもの。多治見市の廃棄物行政の変遷、28年度を含めたごみ処理量の推移、収集量の推移などの収集量や回収量を説明。資源の売り払い状況や廃棄物処理施設について説明。

議事4

(平成29年度多治見市一般廃棄物処理実施計画について、事務局より説明)

概要：一般廃棄物処理実施計画は、基本計画に基づき毎年計画を策定しているもので、一般廃棄物の排出状況など、実施計画に記載された排出予定量や、収集運搬量、資源化量や中間処理施設から排出される飛灰の量などの数値について、算定根拠を説明。

議事5

(平成30年度多治見市一般廃棄物処理実施計画(案)について、事務局より説明)

概要：一般廃棄物処理実施計画は、基本計画に基づき毎年計画を策定しているもので、一般廃棄物の排出状況など、実施計画に記載された排出予定量や、収集運搬量、資源化量や中間処理施設から排出される飛灰の量などの数値について、算定根拠を説明した。平成29年度から変更した点として、処理計画の収集運搬計画の収集回数と収集区分について、表現を一部修正したことを説明。また、②中間処理計画についても一部表現を修正したことを説明。

結論：事務局提案の原案どおりで了承。今後、市民等への周知のためホームページにて公開する。

主な意見

(委員) 1日に何十トンもごみを処理している。このごみをどのように減量ができるのか考えていきたい。

(会長) この計画は4月からのごみ処理を進めていくものである。現在も大きな問題を抱えていないのであれば、問題はないと思う。新しい工場などの大きな増加要因がない限り問題も起きないであろう。企業側にごみについて厳しく規制してもいけないが、ごみ減量を働きかけることは必要である。身近なところで、リサイクルや再利用を企業に働きかけることも重要だと思う。天ぷら油のリサイクルは、どのようにしているのか。

(事務局) 天ぷら油を回収し、堆肥化センターでディーゼルエンジンの燃料として精製しており、三の倉センターのトラックの燃料で使われている。

(委員) 料金表に産業廃棄物の料金が記載されている。産業廃棄物を受け入れているのか。

(事務局) あわせ産業廃棄物として、また、地場産業の振興のために、タイルくずや陶器くずを最終処分場で受け入れている。安定5品目の受入れを1事業者年間50トンまで行っている。

(委員) 料金が210円とは安いと思う。

(事務局) 事業者から廃棄する品目について、事前に申請してもらい承認しているので、事前に品目のチェックは行っている。

議事 11時35分終了